

## 研究室訪問

兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所  
研究第四課 技師 中村 俊哉

### 1. はじめに

兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所は、高齢者や障害者を含むすべての県民が、いきいきと生活できる福祉のまちづくりを強力に推進するため、補装具、福祉用具から住宅、公共建築、都市計画、公共交通等に至る幅広い領域にわたる課題について、主として工学的な見地から研究開発を行い、福祉のまちづくりの総合的な展開を支援していくことを目的とし、平成5年10月に兵庫県立総合リハビリテーションセンターに設立された研究機関です。(写真1)

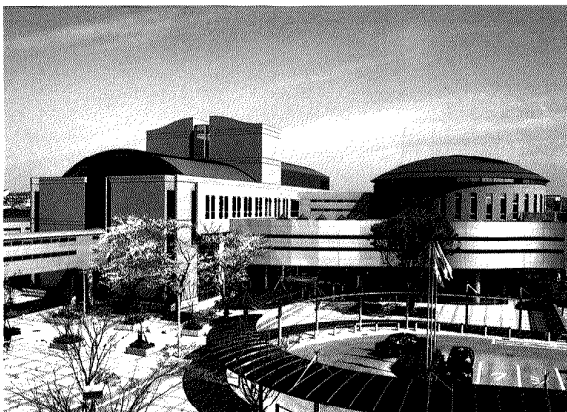


写真1 研究所外観

当研究所では研究開発はもとより情報の発信基地として、当研究所における開発事例や内外の先進的な事例を「福祉のまちづくりセミナー」や、当研究所の機関誌「アシステック通信」(季刊)等により発信し情報の水準の向上に努めています。

平成8年11月には、新研究棟も完成し、設備のより一層の充実と共に、同じリハビリテーションセンターの中にありますリハビリ中央病院、重度更正援護施設、特別養護老人ホーム等の施設と連携を密に行い、より使用者のニーズに基づいた実践的な研究開発を行っています。ここでは、その研究の一部を紹介します。

### 2. 室内用高齢者移動機器の開発

車いすの形態イメージに大きく影響するものとして後車輪があります。

高齢者にとって、心理的抵抗を少なくし、住宅内での利用に配慮した移動機器の開発をめざし、平成8年度及び9年度にタイヤリムと、ハンドリム、ディスクホイール、スポークを一体化した樹脂製後車輪を開発試作し、試験及び評価を行いました。(写真2)

今後、シャーシの開発をする予定です。

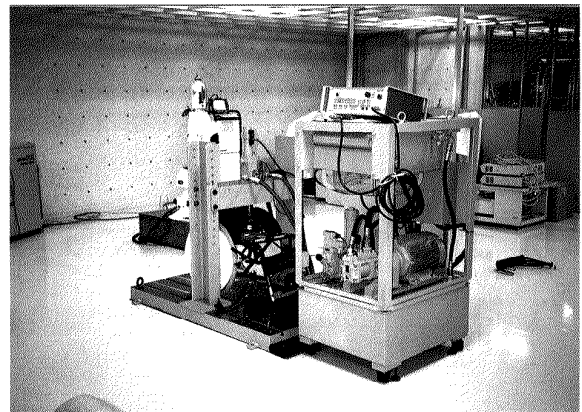


写真2 静荷重後の永久変形量試験

### 3. 国際支援用義足の開発

発展途上のアジア諸国に供給するための義足パーツ開発を行っています。まず将来アジア障害者センターを設立する予定のあるタイの現状を調査した上で開発要素を明らかにするなど、現地の切断者ニーズに合致し、安価かつ既存のものに近い機能を有する義足の開発に努めています。なおこの研究開発はタイの国立シリントン医療リハビリテーションセンターと共同で行っていく予定です。